※触媒の意味

人と組織の
新・論・点

CATALYST※
カタリスト

原田明子

フリーターなど若者の就職を支援するジョブカフェ、プロジェクトリーダー

単なる就職支援じゃない 私の仕事は 生き方の自律支援

「週休2日の正社員で、自宅から通勤できて、きれいなオフィスで働ける事務職がいい」。ジョブカフェに来た若者の多くがそう言います。まるでドラマに出てくるようなバーチャルな職場を想像し、募集条件だけを見ているのです。

私たちは、彼らがバイトや仕事をしていたとき何を感じ、どんなときにつらかったり充実感があったか聴きます。すると、話すうちに仕事の面白さや工夫したことに気づき、初めて自分に引き寄せて、等身大の視点から仕事というものを考えられるようになり、求人誌でも企業メッセージを見て、自分に合う合わないを考えるようになります。

一歩を踏み出させる 周囲からの背中押し

経験のないことや知らない世界に足を踏み入れることを、彼らは非常に警戒します。いいなと思える求人を見つけても、1週間経っても電話をかけられないのです。そこで私は「今、ここでかけてみよう」と声をかけます。電話のかけ方の台本を用意し、時にはメモまで出してサポートします。でも一度できてしまえば自信がつき、次からは1人でかけられるようになるのです。

1人で就職活動をしていると、明日からでいいやと先延ばしにしがちです。そこで十数人の参加者と一緒に、2週間で内定を目指す「必勝倶楽部」をつくりました。

参加者は、毎朝9時から12時半まで、2分間スピーチや模擬面接などのプログラムをこなし、さらに毎日最低でも2社に応募しなければなりません。日が経つにつれ、応募から書類選考に進み、面接を受ける人が出てくると、応募しなければ何も始まらないと気づき始めます。応募すれば状況を変えられると分かった瞬間、躊躇することなく応募できるようになるのです。

大人の本気の関わりが 若者の心に力を与える

ジョブカフェちばには約20人のカウンセラーがおり、その中には企業の人事部長だった人もいます。この人は、若者に対して決して甘く接しません。カウンセリングでも、仕事の場面でメンバーに接するような本気の態度で、何が問題で、何が足らないのかを厳しく詰めます。甘えが見えれば、「お前やる気はあるのか」と厳しく叱咤し、真剣な姿勢が見えると、「お前が本気なら俺はとことん付き合う。こうすれば絶対うまく行く」と正面から見つめて応えるのです。

今までこれほど真正面から怒られたことも、関わってもらったこともない若者は、初めて本気で向き合ってもらえたことを敏感に感じ取り、本気で就職活動に取り組み始めます。こうして、必勝倶楽部では、2週間で5割、1カ月で8割の人が内定を得ていきます。

私は、単に就職支援をしているつもりはありません。若者が内定を得るのは、ここで多くの人と関わり、時には本気で怒られながら、自分の経験や思いを自信をもって語れるようになった結果なのです。就職活動を通じて、彼らが社会で生きていく上で必要な、生き方の自律を支援すること、それが私の仕事です。

文／内田美代子（編集部）

PROFILE　はらだ・あきこ
1971年生まれ。91年人材ビジネス会社に入社。求人広告の編集や人事部での採用・教育の仕事を経て、求職者のキャリア形成支援を担当。2004年からジョブカフェちば（ちば若者キャリアセンター）の業務を受託した民間チームで、カウンセリングやセミナーの企画開発に携わる。